

[24_06]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470202>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 24 (6), 1991-11-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

連絡所めぐり

この連絡所めぐりの掲載を始めて、今まで延べ65校の連絡所の方々にご協力を戴きました。ありがとうございました。今後も掲載を続けていきますので、未提出の連絡所の方々いつでも原稿をお待ちしています。また、すでに提出してある連絡所でも、その後システム構成に変更のあったところは、よろしく願いたします。

61. 九州共立大学連絡所

・連絡所所在地 〒807 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8
九州共立大学 情報処理センター

・連絡所の紹介 本センターは、情報処理に関する教育および研究を支援する全学共同利用施設として1983年(昭和58年)に設置されました。発足と同時にHITAC M-160Hを導入し、87年(昭和62年)のパソコン室開設後には九州大学大型計算機センターと専用回線を敷設し、RJE子局としての運用が開設されました。また、同年には学内LANとしてSS-NET(PBX-LAN)の設置、ならびにHITAC E7300(EWS)の導入が行われ、89年(平成元年)に教育研究用の新システムとしてFACOM A600を導入し100台のパソコン端末機が接続されています。

また、同システムの導入とともに学内LANも拡張されました。センター構成員は、センター長1名、センター職員3名です。

設置機種

HITAC M160H: 教務業務・図書館業務・就職業務・入試業務等に利用
HITAC E7300: 情報処理演習用として利用
FACOM A600: 情報処理教育支援・科学技術計算および研究支援として利用
FACOM SUN3: 情報処理教育支援
YHP 360: 情報処理教育支援
エプソン 286US: A600システムの端末機およびスタンドアロンでのパソコン教育
FMR60: A600システムの端末機
SS-NET: 学内LAN

62. 宇部短期大学情報計数学科計算機室連絡所

・連絡所所在地 〒755 山口県宇部市文京町5-40
宇部短期大学 情報計数学科

・連絡所の紹介 本学の情報計数学科は、昭和40年に設立され、同年に計算機を導入し、以来情報処理教育を行っています。計算機システムは、教育・研究を目的として使用しており、学科の教員により運営されています。計算機の環境は、FACOM M-160FをホストコンピュータとするTSSシステム

ムと、パーソナルコンピュータ（PC9801）のLANで構成されています。教員は各研究室のパソコンを端末として利用したり、スタンドアロンで利用し教育や研究を行っています。九大計算機センターは現在4名（情報計数学科助教授3名、図書館司書1名）が登録しており、公衆回線を通して文献検索に利用しています。文献検索では図書館に設置してあるFMR-50Aより九大を経由してデータベースNAC SISを利用しています。

今年7月にはワークステーションを導入し、各研究室をイーサネットLANで接続し、そしてJUNETに加入する予定です。

6.3. 中村学園大学情報処理センター連絡所

・連絡所所在地 〒814-01 福岡市城南区別府5-7-1
中村学園大学 西1号館5階

・連絡所の紹介 本センターは、平成2年2月の西1号館完成と同時に、中央本館より西1号館5階に移転し、名称も電子計算機室から情報処理センターへと変更致しました。計算機システムは、富士通のFACOM-M760モデル4（主記憶容量24メガバイト磁気ディスク容量3.5ギガバイト）をホストコンピュータとして、センター内に演習用50台、研究用10台およびセンター外に5台のパソコン端末（FMR-60/70）を接続しています。また、大型計算機センターとも専用回線で接続され、センター内外で15台のパソコンがTSS端末として利用できるようになっています。本センターは、主として学生の教育と教職員の研究に利用されていますが、利用サービスの向上を計るため、利用予約管理システム（電源管理システム）や教材提示システムなどを導入し、有効に活用しています。現在、本センターの構成員はセンター長（兼任）と専任の職員が2名です。また、大型計算機センターへは、3名が登録されています。

6.4. 九州産業大学連絡所

・連絡所所在地 〒813 福岡市東区松香台2-3-1
九州産業大学 情報処理センター

・連絡所の紹介 はじめまして、こちらは九州産業大学連絡所です。本連絡所は、情報処理センター内にあり、所長1名、学部兼任の研究員4名、事務職員13名から構成されています。九州大学とは、本年4月に専用線から大学間ネットワークによる学情網に変更され、現在33名が利用者登録をしています。さて、情報処理センターの教育・研究分野の設備を紹介しますと、ホスト機にFACOM M-760/10（MSPとUTSで運用）、WS（S-4・S-3・HP・NEWSなど）37台、パソコン（FMR・PC・MACなど）216台が富士通のDSLINKにより接続されています。

本学の特色としては、WS上で稼働しているリンクスシステムによるCG、CAD教育が上げられます。

さて、学内には、電気工学科にNEWSを中心としたLANがあり、ここから、JUNETやWIDEに接続されています。この電気工学科LANとセンター内LANとは、SS-NETによってIP接続され、メールによるレポート提出なども行われています。

なお、本学にお越しになられる機会がございましたら、ぜひ情報処理センターにお立ち寄りください。

65. 佐賀女子短期大学連絡所

・連絡所所在地 〒840 佐賀市本庄町大字本庄1313
佐賀女子短期大学

・連絡所の紹介 本短期大学では、学生実習用にパーソナルコンピュータ60台(NEC PC9801VM21, DX2)を設置しております。教員のコンピュータの利用は、研究室でパーソナルコンピュータを利用するという形態がほとんどです。

連絡所は、平成3年2月に設置されたばかりです。端末は、図書館に文献検索用に設置したパーソナルコンピュータ(NEC PC9801DX)を用い、公衆回線を通して接続しております。大型計算機センターの利用登録者はまだ1名で、主に電子メールで研究者間の連絡に利用しています。現在、電話回線の関係で、各教員の研究室からのアクセスができませんが、将来的にそれが可能になれば、利用者も増えることと思われま

66. 大分大学連絡所

・連絡所所在地 〒870-11 大分市旦野原700
大分大学 情報処理センター

・連絡所の紹介 本センターでは本年2月、新計算機システム、情報処理教育システム、および学内LANの運用を開始した。新計算機システムの一つ、FACOM M770 1台は、この8月に最新OSのMSP/EXとUXP/Mの導入作業が終わった。その他の新計算機システムとして、ミニコンのFACOM A80(1台)、SUNワークステーションのS4/490(1台)、S4/370(1台)、S4/1(2台)、S4/LC(11台)がある。これらの計算機はすべて学内LANに接続され、このうちS4/LCを除いて、学内の研究室等からLANを介しても利用されている。情報処理教育システムの61台のパソコンは相互にネットワーク接続され、さらに学内LANとも接続されており、各学部の情報処理教育の授業に利用されている。学内LANの構成は、FDDI(100Mbps)を基幹LANとし、そこからの支線LAN(イーサネット)を学内の各部に張り巡らしたものである。学内LANはA80を介してJAINに

も接続されており、本センター利用者はメールサーバS4/490（ドメイン名oita-cc.cc.oita-u.ac.jp）にログインして、電子メールによる学外との通信をしている。M770はN1ネットに接続され、九州大学大型計算機センターのスーパーコンピュータの利用や、学術情報センターのデータベース検索利用等にも使われている。本センターの新計算機システムは、学内外の交換回線からの利用もできる。現在のセンター職員構成は、センター長、センター次長、事務官、技官が各1名と補佐員2名である。

広報教育室だより

センターへの意見、質問は電子メールで（その3）

センターでサービスしている電子メールシステムには次の3つのものがあります。

| | | |
|--------|-------|--------|
| JUNET | | UTSで運用 |
| BITNET | | MSPで運用 |
| MHS | | MSPで運用 |

これらのメールシステムには、利用者の意見や質問等を受け付ける窓口（メールアドレス）が用意されています。JUNETとBITNETについては前前回と前回に説明しましたので、今回はMHSメールを利用する方法について説明します。詳細はこの広報の解説記事を参照してください。以下に、パソコンのエディタやワープロで作成したテキストファイルをMSPに転送し、それをメールとしてセンターの相談窓口に送るための必要最低限の手順を紹介します。なお、前回のBITNETの場合と異なるのは手順(5)だけで、そのほかはまったく同じです。

(1) パソコンをMSP端末として使うための端末エミュレータの入手

パソコンをMSP端末として使うためには、まず端末エミュレータと呼ばれるソフトウェア一式を用意する必要があります。いろいろなものがありますが、ここでは高エネルギー研究所の藤井啓文氏による Kermit を使った例を示します。これは NEC PC-9801 用の PDS(Public Domain Software)で "msvp98.exe" という実行ファイルとして提供されています。その他に、パソコンとMSPでは漢字コードが異なるため、日本語メールを扱うためには漢字コードを変換するためのソフトウェアが必要になります。ここでは "nkf.exe" という MS-DOS 実行ファイルで提供されている PDS を使った例を示します。いずれもセンター2階のオープン端末室に用意していますので、必要な方は各自フロッピディスクを持参してコピーしてください。また、これらの PDS ソフトウェアはオンラインコピーサービスで入手することもできます。詳細はセンターニュース No.421（または広報, Vol.23 No.5, pp.547-551,1990）を参照してください。

(2) パソコンで MS-DOS を起動

端末エミュレータが用意できたら、モデムの電源を入れ、続いてパソコンの電源を入れMS-DOSを起動します（以下では 1200/2400bps (V.22/V.22bis) 対応モデムを想定）。

(3) MSPとパソコン間の回線の確立

パソコンで MS-DOS が起動してプロンプト（例えば "A>"）が表示されたら、以下の手順により端末エミュレータを起動し、通信速度と通信パラメータを設定した後モデムに電話発信コマンドを送りMSPとの間に回線を確立します。回線がつながると画面にMSPのログオンメッセージが表示されますので、登録番号、続いてパスワードを入力します。

| | | |
|-------------------------------------|-------|----------------------|
| A> <u>MSVP98</u> | | 端末エミュレータを起動する |
| | | |
| MS-Kermit> | | 最初は Kermit モードになっている |
| MS-Kermit> <u>SET SPEED 2400</u> | | 通信パラメータの設定 |
| MS-Kermit> <u>SET PARITY EVEN</u> | | |
| MS-Kermit> <u>SET LOCAL-ECHO ON</u> | | |
| MS-Kermit> <u>CONNECT</u> | | 動作モードを端末モードに切り換える |
| <u>AT</u> | | モデムが正常なら "OK" が返る |
| <u>OK</u> | | |

```

ATDP 092-631-1839          ..... モデムからセンターMSPに電話する
(または ATDP 10, ATDP 0631-1839) ..... 箱崎地区学内電話を使うとき
CONNECT 2400/REL
~
enter class M
class m start
~
JCET005 SYSTEM READY
LOGON TSS A79999A          ..... ログイン名(登録番号)を入力
PASSWORD ~~~~~           ..... パスワードを入力
.....
READY                      ..... MSPプロンプト

```

(4) パソコンからMSPへメールファイルの転送

パソコンとMSPの間でファイル転送を行うためには、両方でKERMITプログラムを起動する必要があります。MSPでKERMITが起動されると"KERMIT-MSP"のプロンプトが表示されます。パソコン側では端末モードとKermitモードの2つがありますが、ファイル転送を行うときには前もってKermitモード("MS-Kermit")のプロンプトが表示)に切り換えます。

(a) MSP側での操作

```

KERMIT                      ..... MSP側でKERMITプログラムを起動
KERMIT-MSP> RECEIVE MSP.DATA ..... MSP上の受信ファイル名を指定
Receive Waiting ...

```

(b) MS-DOS側での操作

```

~]C ("CTRL" キーを押しながら "]" 続いて "C" キーを押す, またはSTOPキー)
..... 端末モードをKermitモードに切り換える
MS-Kermit> PUSH             ..... 一時的にKermitモードを抜けてMS-DOSへ
A> NKF B:MAIL.DOC > B:TMP.DOC ..... 転送ファイルMAIL.DOCの漢字コードをJIS
                                ..... コードに変換して一時ファイルTMP.DOCに保存
A> EXIT                     ..... MS-DOSから再びKermitに戻る
MS-Kermit> SEND B:TMP.DOC   ..... 漢字コード変換されたファイルをMSPへ転送

```

(c) ファイル転送開始

転送状況を確認しながら終わのを待つ

(d) 転送後の操作

```

MS-Kermit> CONNECT         ..... パソコン側を端末モードに切り換える
KERMIT-MSP> QUIT           ..... MSPのKERMITプログラムを終了
READY                      ..... MSPのプロンプト

```

(5) MSP上でMHSメールの送信

JUNETおよびBITNETは利用登録を行い登録番号が交付されればその時点からすぐに使うことができますが、MHSメールを使うためには別にO/R名(Originator/Recipient; アドレスに相当)を登録する必要があります。もちろんこの登録は一度だけ行えば十分ですが、二度以上行っても別に問題はありません。

(a) O/R名の登録

```

READY
MHSREG                      ..... O/R名登録の起動コマンド

```

登録すべき登録番号を入力して下さい

A79999A

..... 自分の登録番号を指定する

*** MHS メール利用登録 ***

- 1 利用開始のためのOR名の登録
 - 2 和名のOR名の登録
 - 3 OR名の変更
 - 4 利用期限の延長及び年度更新
 - 5 和名のOR名の削除
 - 6 利用取消
 - 7 OR名の表示
- Q 終了

希望する番号を入力して下さい =>

1

USER READ ERR USRNO=a79999a RC= 51

USER READ ERR USRNO=a79999a RC= 51

KEQ56501I REQUESTED INPUT DATA SET IS EMPTY

READY

(b) メールの送信

READY

MHS_L

..... MHS メールシステムをラインモードで起動する

SCREEN MODE = LINE MODE

* LINE MODE FINES SET-UP NOW * 10/01/91 17:49:24

WELCOME TO FINES (V11L10)

環境設定中...

検索条件に一致するメールがありません

FINESのコマンドを入力して下さい (FMAIL/NEWSPOST/NEWSREAD/ME/END:Q): FMAIL A70052A

..... センターに関する質問はアドレス"A70052A"で受付けている

タイトル (タイトル/ENTER): QUESTION

テキスト (ENTER OR *./-E/-UPLOAD/DATASET NAME & ATRB/Q!): MSP.DATA

..... メール本文のデータセット名を指定する

タイトル: QUESTION

宛先: A70052A

発信しますか (YES:Y OR ENTER/NO:N OR Q/A/S/E/C/L/T/V/ME/X) ?> Y

メールの発信が正常に終了しました

FINESのコマンドを入力して下さい (FMAIL/NEWSPOST/NEWSREAD/ME/END:Q): Q

SEE YOU AGAIN

READY

(6) MSPを終了

LOGOFF

..... MSPを終了

]C ("CTRL" キーを押しながら "]" 続いて "C" キーを押す, またはSTOPキー)

MS-Kermit> QUIT

..... 端末エミュレータ (および Kermit) を終了して MS-DOS へ

A>

..... MS-DOS のプロンプト

(広報教育室 内線 2508)

ライブラリ室だより

花子. 9月24日から大型センターのOSが変わったとか?今日は少しOSの話をしてくれる?

太郎. OK!センターのOSは、従来のOSIV/F4 MSPから OSIV/MSP (以後MSP-EX (通称)と略します)に変わったよ!

花子. MSP-EX?!何が変わったの?

太郎. 従来からのM780のハードウェアを改造し新しいアーキテクチャ (以後 EXAと略します)にしたんだ (91年4月より).

だけど、従来のOSだと強化された新しいEXAを十分に使いこなせないで、性能向上は望めない. このEXAを有効に使うために4月~9/23に渡ってEXA向のシステムを構築してきたんだ. (思い返すと実にいろんなことがあったよ!)

花子. 来年早々、汎用機・スパコンと入れ替わるといふのにどうして?

太郎. 次期機種は汎用機・スパコン共にEXAを使っているので、MSP-EXのOSがそのまま使えるんだよ. 当然 繁忙期のシステム切替えをスムーズに行えるようにと考えてだよ.

花子. MSP-EXになつてどんな機能が追加されたの?

太郎. 今は実現していないけど、システム記憶 (SSU: System Storage Unit) をサポートするようになるんだ.

花子. SSU?

太郎. CPUから直接アクセス可能な47ビットSS (System Storage)空間を実現した装置で、この装置をWORKボリュームに使うと磁気ディスク装置と違ってI/Oのレスポンスタイムが大幅に削減されるのでスループットの向上が図れるのだ.

次期システム (汎用機・スパコン) には導入すると聞いているけど.

花子. へー、他には?

太郎. I/Oのスループットの向上が大きな目玉だね. 以前はOSが管理していたところをハードウェアにまかせてOSはその手のあいた分他の処理を行うなど、スループット面はかなり気を遣っているみたいだよ!

その他には、新I/Oのサポート (アレイディスク、F6246、SSUなど...)や、NJEの最大ノード数が従来標準では99コだったのが9999コもの計算機 (大学)につなぐことができるようになったことなど.

RJEの最大端末数も255台から999台へ拡大されたんだ. (フーン!)

ソフトはどんどんAEへ対応していくらしいよ.

花子. AEといえばFORTRANが新しいコンパイラに変わったわよね.

FORTRAN77 EXといったかしら.

太郎. そうそう FORTRANも拡張域対応をめざしていて、今度のバージョンアップにより相当大きなジョブが走るようになってきているんだ. 注意したいのは、ソースプログラムのデータセット内容識別修飾子を従来の「FORT77」から「FORT」に変更してほしいとしている点だよ.

自分の全データセットを一斉にRENAMEできるツールが紹介されているから (ニュースをご覧ください)、花子もそれを使って修正しといた方がいいよ.

花子. うん、わかったわ. 私も早速、新しいOS、新しいFORTRANを使ってみるわね.

— MSP/EXからは、日本語TeXをサポートする予定です. —

— この原稿は日本語TeXで書く予定だったんだけど、TeXのお勉強が間に合いませんでした. ごめんなさい. (花子) —

(ライブラリ室 内2508)